

CREDIT CARD LEADING TO THE FUTURE

神社初のクレジットカード「鹿島神宮カード」がいま誕生した理由

今年1月に発行を開始した、神社として初のクレジットカードである「鹿島神宮カード」。年会費、ポイントが神社に寄付される斬新なカードはなぜいま、生まれたのか。鹿島神宮・宮司がインタビューに答えた。

photographs by Yoza Yoshino (Y's C)



新しい仕組みのクレジットカード

年会費やカード利用で貯まったポイントが、式年大祭御船祭の斎行および文化財の保護継承のために寄付される。5,000ポイントごとに自動寄付され、返礼品が送られる。買い物や支払いが鹿島神宮との結びつきを強め、社会貢献にもつながるという画期的なカードだ。ゴールドカードの年会費は10,000円＋税。一般カードは5,000円＋税。ウェブからも申し込みができ、遠方からの入会も可能。

茨城県・鹿嶋市にある鹿島神宮は、神武天皇元年からの歴史を持ち、日本の建国に多大な貢献をした武甕槌大神（たけみかづちのおおかみ）を祀る由緒ある神社であり、源頼朝や徳川家康、秀忠をはじめとする武将や政を司るリーダーたちに崇敬されてきた。

そんな鹿島神宮が、三越伊勢丹グループのクレジットカード会社エムアイカードとの提携による「鹿島神宮カード」を発行。入会者の3割を会社経営者や役員が占めるといふ。その背景にある、鹿島神宮が古くから現在にいたるまで日本のリーダーたちに崇敬されてきた理由を鹿島神宮・宮司の鹿島則良氏が語った。聞き手は「鹿島神宮カー

ド」の実現に尽力し、事務局の代表を務めるレーザー鹿島氏。

「古い時代の神道においては、自然を抜きにして神は存在しません。天照大神は太陽の象徴、大国主命は大地の象徴、では、鹿島の神、武甕槌大神（たけみかづちのおおかみ）はというと、太陽という宇宙のパワーを真っ先に受けて、万物を発展、成長させる「鹿島立ち」の神であり、いうならば宇宙規模の力の神様です。古事記にある国譲りの場面では、出雲の大国主命の子供、建御名方神（たけみなかたのかみ）と力比べをして、赤子の手をひねるかのような圧倒的な力の差で勝ったと記されています。大地の力

は宇宙の力には叶わないという自然界の法則が神話として語られているのです。平安時代までは、神宮という最高位の社格は、伊勢神宮、香取神宮（千葉県香取市）、鹿島神宮の3つしかありませんでした。この東の辺鄙なところに神宮が2社もあったことは、太陽が昇る方位が非常に重要視されたということを表しています。太陽がスタートするような宇宙の気が出る時、現代で言えばロケットを飛ばすとき、組織を作るときには大きなエネルギーと、それをバックアップするすごい力の神様が必要で、その力を持つ神様として崇敬されてきたのが鹿島の武甕槌大神です。力が弱い神様だったら吹き飛ばされてしまいますから。史実として歴代の日本のリーダーに崇敬されてきた記録が残っており、いまでも日本のリーダーとなるみなさんは鹿島神宮にお詣りされています。近代では1962年に住友金属工業が鹿嶋市に製鉄所を造るにあたり、当時副社長だった日向方齊氏が鹿島神宮でおみくじを引き、最後の決め手にしたという資料が残されています」

——「鹿島神宮カード」はお祓いの後に発行されますが、初めてのお祓いの祝詞の間、天井の電灯がチカチカと点滅したそうですね。「東日本大震災の影響で落下した本殿の千木を高所作業車で元に戻し作業員が地上に降りたときには、雷がドーンと落ちました。晴れている中で。千木は高天原と神々、神々同士のアンテナなので、設置されたと同時に通電のテストが行われたというわけです」

——この寄付のカードを着想したきっかけは、ある神社が敷地内にマンションを建てて、その定期借地権収入で式年行事の斎行費用を賄うというニュースでした。そこで、三越伊勢丹グループが近年力を入れている、日本のものづくりや伝統の素晴らしさを見直し継承していく助けになればという活動の一環として、これまでにない仕組みが始まりました。「このカードのお話をいただいたときは、前



江戸時代に鹿島神宮の御札に記されていた社紋。上の三角が稲光を、「田」の字は「ゴロゴロ」と鳴る雷の音、4つの点は東西南北、下の波線は神が立つ波を表す。象形文字は実在のものを表すと言われる。

回の御船祭が終わったばかりでちょうど次回のことを考えていました。御船祭は2000年続く12年に一度のお祭りです。費用がかからないよう小規模にしているのは神様に申し訳ない。鹿島神宮の武甕槌大神と香取神宮の経津主神（ふつぬしのかみ）がこの国ができるときに活躍されたことをみなさんにしっかりお伝えるために、前回同様か、より盛んな祭りをしていきたいとなると、いままで頂戴している寄付金のほかに何か安定的なことはないかと検討し

ていたところに、クレジットカードの業界では初めての試みはどうかとお話をいただいた。鹿島立ち（＝旅立ちや門出の意）という言葉があるように、日本建国以来、全てのことは鹿島から始まったという歴史があります。神社初の試みなのであればぜひ鹿島神宮からという思いで、これはすごいな、いいな、と感じました。そしてカードが発行されますと、受け取った方からの声として、鹿島神宮でお祓いを受けたカードをお財布に入れていることで鹿島の神様が身近におられるように感じる、と。ポイント寄付への返礼品としては境内で育った杉を使用した銘々皿をお贈りしますが、鹿島神宮を身近に感じていただいで、また行ってみようという気持ちになるのはありがたいと思います。また、たくさんの文化財建造物の修理には大変な費用がかかります。国からの補助率が下がってきているなか、カードのご寄付は文化財の保護継承のための積立にも考えております」

——「鹿島神宮カード」の寄付を通じて、利用者は感謝の気持ちを表し、神様からエネルギーを授かり、物事の立ち上げや悩んだ時に支えていただく。一方で、鹿島神宮を維持して国や人々を守るための費用の一部にそれが充てられるという、これまでになかつ



（写真上）徳川家二代将軍、秀忠が奉納した本殿。東日本大震災時に本殿の千木が落下した際、古くからの規則に従い天皇陛下に奏上。後ろには、樹齢1300年、高さ約40メートルの御神木が鎮座。（写真下左）穏やかに語る、宮司の鹿島則良氏。（写真下右）「鹿島神宮カード」は神職によるお祓いののち、届けられる。

たWin-Winの関係を期待しております。

「誰を信じたいのか分かりにくい時代になってきましたが、日本人の心の中にある、神社や神様という何千年の歴史の中でずっと信じられてきたことの大切さに、みなさん気がつかれてきたのではないかと思います。ぜひ鹿島神宮にもお詣りいただいて、鹿島の神様の強い力を授けていただいて、それが仕事の上での決断力とか指導力とか、世の中に役立てればいいのかなと思っていますよ。神様には、毎日のご奉仕の中でよくお願いしていきたいと思います」

鹿島神宮カード公式サイト
http://www.micard.co.jp/card/ksm/

いつの時代も変わらぬ思い

鹿島神宮カード事務局代表
レーザー鹿島



武甕槌大神は相撲の神様としても知られ、両国国技館の壁面にも描かれています。先日、初めての奉納土俵入りを行った横綱、稀勢の里関は「中学3年のとき、初詣で勝守を買った。（横綱として）ここに帰ってくるのができて光栄」と。かつて徳川家康は関ヶ原の戦いを前に鹿島神宮で祈願し、戦勝のお礼にと本殿（現在の奥宮）を奉納しました。鹿島の神様は、いつの時代も強い思いを持ったリーダーたちを見守って下さっているのですね。「鹿島神宮カード」を通じて、鹿島の神様とみなさまの結びつきがより深まることを心から願います。